

オリンパス株式会社
2024年3月期第1四半期決算カンファレンス 質疑応答（要旨）

（注意事項）

本資料は、2024年3月期第1四半期決算カンファレンスでの質疑応答の内容を書き起こしたものです。また、ご理解いただきやすいよう部分的に加筆・修正しています。

本資料に記載している内容のうち、業績見通し等は、本資料現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断でご使用ください。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

【質疑応答（要旨）】

Q: 社内計画に対して1Q はスロースタートだったとのことだが、売上高・利益で、それぞれどの程度下振れだったのか。また、それぞれの下振れの要因は何か。

A: 売上は、社内計画比で3%程度下振れ。多くは出荷停止・部品供給不足に由来する売上の機会損失が要因。1.5%から2%くらい連結売上の成長阻害。とりわけ TSD に際立っており、TSD の売上では3-4%の成長阻害。また、四半期ごとの社内計画の精度も若干関連している。例えば、アメリカでの EVIS X1の発売を控え、想定より買い控えが多かった。また、中国において、顧客在庫が想定以上に多かったため、症例数の増加ほど売上が伸びなかった。原価は想定通り。SGA 全体で約40億円計画を超過した。内訳と要因は、半分は費用計上のタイミングのずれ（先行）。残りは QARA 関係でコンプレイントハンドリングの件数が想定以上に増加し、コストが増えたこと等が影響。

Q: TSD について、泌尿器が若干弱いかと思う。出荷できなかったことが理由と触れられたが、もう少し詳しく説明してほしい。また、出荷を抑制されているとのことだが、その影響を詳しく知りたい。特に泌尿器については主な競合他社に対し、ここ2、3四半期かなり低迷しているのではと思っている。なぜ泌尿器は第1四半期低迷しているのか。

A: 説明の中にも出荷停止や部品供給問題があったが、泌尿器科では主要製品で発生した。Plasma（切除電極）SOLTIVE で影響を受けており、特に欧米の影響が大きい。一方、オーストラリアについては好調に進捗しており、少し挽回している状況。

ここ2、3四半期において、供給面での抑制があった。一部製品において出荷抑制はリカバリーが見られるが、まだ全面的なリカバリーではない。今後、サプライチェーン関係者と連携して改善していく。一方で、主要なエリアで大きく売上が伸びる中で、出荷が追いつかない状況となっているため、今後については成長に期待している。

Q: 出荷が停止しているのはなぜ。具体的にいつリカバリーがあるのか。主要製品が出荷できていないのは今期見通しに織り込み済みか。

A: いくつか要因はあるが、サプライチェーン関連や部品関連が要因の1つであり、すぐに改善することが難しい状況。製造拠点に部品等が入るまでにタイムラグがあり、且つキャパシティも限られている。そのため、製造拠点

と連携をとりながら、できるだけ生産量を延ばそうと努力している。また、場合によっては、サプライヤーと協力し、委託製造を対応策として使っている。タイミングという観点においては、一部製品においてバックオーダーがあり、顧客に対してきちんとオーダーの充足を行っているが、複数の地域や製品に関わっているため具体的な改善のタイミングをお伝えすることが難しい。加えて、Plasma 電極に出荷抑制がかかったが、既に解除されており、今後とも供給は確保したいと考えている。第2四半期にはフルリカバリーすることを期待している。

Q: FDA Warning Letter 対応の QARA 費用、年間の見通しを確認してほしい。現時点で年間どれくらいの見通しか。また、QARA 費用以外の効率性改善のプロジェクト関連費用については、第1四半期と年間でそれぞれどれくらいか。

A: 今年度の Remediation Cost (FDA Warning Letter 対応の QARA 費用) の総額は220億円から変わっていない。モニターしながらレビューを実施しており、かなり頻繁に確認しているが現状は変わらない。第1四半期は50億円程度がその他の費用、数億円が SGA に発生。進捗について、基本的にはオントラック。残りの第2～4四半期で220億円から今期発生した約50億円を差し引いた金額が配分される。特に SGA パートの進捗が遅いので、残りの9か月間で高めの割合で発生すると考える。

ご参考までに補足させていただくと、今年度の SGA (為替調整前) は通期で前期比約300億円増額として見込んでいる。この300億円の増加のうち、第1四半期では既に85億円増加しているため少し費用が先行している状況。一方、社内計画比で見ると、40億円程度 (4%) 超過。半分の20億円はタイミングのずれの話なので通期で解消予定だが、残りの20億円は計画を超過したものだ。計画通り、通期では前期比で約300億円増に収めることができるよう対応する。

Q: 北米における消化器内視鏡が昨年比マイナスとなっている。金利の上昇がリース販売に影響していることも考えられるが、弱さの要因としては EVIS X1の買い控えだけが原因か、それとも設備投資意欲全般の影響も起因しているのか。

A: 病院経営は厳しくなっているが、内視鏡事業への影響は限定的と理解している。5月の DDW で北米での EVISX1発売をアナウンスしてから、買い控えが発生している。

設備投資の環境がアメリカで変わったことが、少しマイナスに影響している。EVIS X1に対してはかなり期待感があり、GI のコミュニティーもそれを待っている状況。設備投資に関するプレッシャーについては、当社はそれほど大きな影響は受けていない。

Q: 泌尿器にフォーカスして出荷抑制や部品供給問題について説明いただいたが、呼吸器でも出荷抑制があると聞いた。背景と該当製品について聞きたい。また、7月にレーザー治療機器に関してのリリースがでているが、第1四半期にも影響しているのか。

A: 呼吸器はVeran 関連製品出荷止め、気管支鏡供給遅れ、処置具バックオーダー等が立て続けに起きている。継続的にサプライチェーン関連の問題が呼吸器領域でも起きており、ニードル製品についてバックオーダーが積み上がっている。全ての製品カテゴリーではないが、これまでも2桁成長が見られた EVIS X1関連の一部製品であるため、この制約の状態が1年程度続いている。サプライヤーと話を詰めているが、マテリアル関連の問題があった。呼吸器関連全般では EVIS X1のローンチを待っている状況で、いくつかの地域ではキャピタル面での制約が影響を与えている。ヨーロッパ・日本等の一部病院では設備投資が鈍化しており、この影響も受けている。気管支内視鏡とレーザー治療機器の使用については、これまでのところビジネスへの大きなインパクトはなく、今後大きな影響はないと思っている。

Q: 売上の下振れだが、社内計画に対しておおむね3%下振れ、1.5-2%出荷停止やリコールのサプライチェーン問題に起因する。それ以外にはどのような要因があったか。中国のTSDが症例数の増加ほど増えなかったとのことだが、それで説明できるのか。背景は。

A: 連結の売上1.5-2%の成長を阻害したものと、出荷止めや、部品供給不足が主な要因となった。残りの要因はたくさんあるが、例えばアメリカでのEVIS X1買い控えが想定以上に多かったこと。中国での顧客在庫が想定以上に多かったため症例数と出荷が連動しなかったこと。

Q: 残りのたくさんある要因、回復しそうか。

A: 出荷止め等に対して、手は打っている。製品によっては取扱説明書（Instruction for use）を修正し出荷する等、かなりの部分で対策は進めており、キャッチアップ可能な状態にある。アメリカの買い控えについては、下期のEVIS X1の投入で巻き返していく。中国については、顧客在庫が消費され次第、症例数度と連動し第1四半期より強い成長を期待。

Q: 思ったより出荷できていないのは、オリンパスの構造的な問題（社内の体制を変えて、基準等のハードルを上げたこと）が原因か。

A: 部品供給は他社での厳しい状況が影響している。QARAに関しては、様々な製品・プロセスをチェックし、高い基準でPatient Safetyに注力している。加えて、コンプライアンスにも注視する必要がある。全てのプロセスや書類がきちんと整っていることを確認し、もし問題があれば、その製品を止めて是正する、取扱説明書を変える等の対応が必要となる。患者さんの安全レベルだけでなく、全ての規制当局の高い基準を満たすようにしている。

Q: 営業利益の社内計画比での増加額は。ESD/TSDの内訳は。

A: 調整後営業利益は、社内計画比で約90億円下振れ。セグメント別に関しては、開示ベースとはSGAのアロケーションが異なるため回答を控える。

Q: 中国のAnti-corruption 施策の影響での入札がスローという話も聞くが、そのあたりの状況はどうか。また、中国の足元の状況について変化があれば教えてほしい。

A: Anti-corruption 施策に関して、今のところ当社のビジネスに影響があるとは聞いていない。ESDのキャピタルビジネスにおいて、Anti-corruptionの活動が新たに出てきている。かなり以前に中国で同様の事象があった際には当社ビジネスにも数か月に渡って影響があったため、今回も注視している。中国は前期比で大幅成長となっているが、前期はロックダウンの影響があったため。今後数か月、Anti-corruptionの影響を注意深く見ていく。また、低金利融資施策についても今後影響が出てくる可能性があるため、中国のマネジメントと密に連携してビジネスへの影響を注視している。現時点では時期尚早のため詳細をお答えすることは難しい。

Q: 病院の設備投資の減退について、内視鏡事業ではあまり影響がないという話だったが、日本や欧州では影響もあるとお話しされていたかと思う。地域ごとの強弱と会社計画には織り込み済みか教えてほしい。

A: 地域ごとの正確な数字のお伝えは難しい。欧州は、全体的に経済状態が少し減退しており、予算が圧迫されている。加えて、去年は英国・ロシアで大きな投資があり今期はその反動もある。また、コロナの影響も引き続き残っている。そのため、足元、欧州や日本ではあまり外部環境は前向きではないが、計画に織り込み済み。APACとラテンアメリカ等は強い成長が見込める。足元では、出荷問題、QARA 関連対応、地政学リスク等の事象が発生しているが、これらは通期見通しに反映されている。しかし、地域ごとの振り分けはお伝えすることが難しい。

Q: 調整後営業利益は、90億円下振れとのことだが、内訳は約20億円のQARA対応費用、約20億円の費用計上のタイミングのずれ。残りの50億円程度は出荷停止やサプライチェーン関連が起因しているのか。

A: ご認識の通り。

以上